



市民をつなぐ党 目黒支部

2023年2月号

# 後谷ちほ

うしろだに

みなさんは「目黒とはどのようなまちですか?」と聞かれた時、何と答えるでしょうか。普段意識する機会がなくとも、私たちが住む目黒区には、素晴らしい魅力があります。また同時に、より良いまちとなっていくための、多くのポテンシャルも持っています。そのカギとなるのが、区民であるみなさん1人ひとりであり、区議会が、その潤滑油としての役割を担います。選ばれた人間による閉ざされたものではなく、区民の当たり前の感覚を反映させた政治をつくり、「豊かな目黒区」「未来ある目黒区」を一緒に考えていきましょう。



平日の朝、目黒区内の駅で挨拶運動をしています



市民をつなぐ党では勉強会や、講演会、シンポジウムを開催しています



悩みや意見を気軽に話せる「お茶会」  
お気軽にご参加ください♪



イベント情報や活動報告更新してます

市民をつなぐ党HP



後谷ちほ  
選挙ドットコム



公式LINE



目黒区のお悩みやご相談は  
『市民をつなぐ党  
目黒区支部長 後谷ちほ』  
公式LINEアカウントに  
メッセージをください♪

\* ボランティアスタッフを募集中です。  
お気軽にお問い合わせください [info@chihoushirodani.com](mailto:info@chihoushirodani.com)

市民による市民のための健全な政治づくり

政治をもっと頼れる、身近なものに!

# 後谷 ちほの主な政策

## 子ども・子育て世代と共に育つ目黒



- ・目黒のプレーパーク作りを助成します
- ・フリースクールなど代替教育策を推進します
- ・学校や公園での危険な除草剤使用禁止を推進



## 若者世代・働く世代と共に立つ目黒



- ・中小零細企業・商店街店舗を支援します
- ・オーガニック事業立ち上げを助成します
- ・予防医療を強化推進します



## シニア世代と共に歩く目黒



- ・コミュニティバスを実現します
- ・介護施設に保育所を隣接し3世代相互交流を提案します



## 頼れる目黒

- ・地域の防犯防災力の強化
- ・NPOや団体、個人による自助コミュニティ作り扶助
- ・動物殺処分ゼロ



## 美しい目黒

- ・緑地化推進
- ・公園トイレの整備
- ・放置自転車ゼロ
- ・駐輪場の整備
- ・ゴミ、食料廃棄削減



## コロナの先へ

- ・新型コロナ感染症対策の抜本的見直し
- ・ワクチンハラスメント、マスク強要の防止
- ・コロナワクチン被害者救済窓口の設置



相互見守りパートナー制度の提案



市民をつなぐ党 目黒支部

## 後谷 ちほ (うしろだに ちほ)

**経歴** 1977年 兵庫県芦屋市生まれ  
武庫川女子大学附属中高短大卒  
明治安田生命保険(相)を経て  
エステサロン会社経営歴20年

**血液型** AB型  
**星座** さそり座  
**動物占い** 黒ヒョウ

**資格** 栄養士、薬膳アドバイザー、  
内海式薬害研究センター認定セラピスト  
CIDESCOインターナショナルエステティシャン

**趣味** 料理研究  
**特技** 歌って踊ること

私は兵庫県芦屋市という、高所得世帯の割合が極めて高い地域で生まれ育ちました。しかし、私自身の家庭生活は決して豊かなものではありませんでした。ドラマのような話ですが、家業である八百屋で、両親は朝から晩まで働き、質素な生活をしていた私は、家業を理由にいじめを受けてしまうこともありました。仕事をするようになった今こそ、両親を誇らしく思います。当時の私は、周囲に劣等感を抱きながら育ちました。そのような生い立ちから、「自分の人生は自分で切り拓きたい」という起業家精神をもつようになりました。その後、25歳でエステサロン会社を開業し、仕事に没頭しました。周囲の助けに恵まれたこともあり、順調に業績を伸ばし、地元関西だけでなく、念願の東京進出を果たすまでになりました。

絵に描いたような「仕事人間」だった私ですが、40歳を境に、物質的な豊かさとは異なる「精神的な豊かさ」について考えるようになりました。「人をキレイにする」仕事にやりがいは感じていましたが、180度くらい振り切って、新しい人生にしてもいいのではないかと私だからこその事はないかと考えた結果、以前から関心のあった政治の道を志すことにしました。今後の人生は、自身が住まう社会の為、未来の子ども達のために尽くしたいと思っています。

目黒区は、景観がよく、風光明媚なまちである芦屋市と似た雰囲気を持つ区であると感じています。1本の道を隔てた先に隣区があり、簡単に区をまたいで転居できる東京都において、「目黒区がいい。目黒区に住みたい」と評価されるまちづくりが不可欠です。少子化対策としての子育て支援は喫緊の課題です。20代から40代の女性に選ばれる区政を意識し、子育て世代に優しい目黒区を目指します。また、阪神大震災で被災をした際に、八百屋を営む両親が、周囲の安全・安心を考え、献身的に振る舞う様子を間近で見たことは、防災について考える上で、大きな原体験となりました。地域の方々と、持続可能で新しい形のコミュニティを日頃から構築していくことが、近い将来想定される大災害への対策になると思います。

— 互いの顔が見え、手を取りあう、美しい目黒を目指して —